

# 平成28年度 東京都立芝商業高等学校経営報告

平成29年3月31日  
校長 丸山 正二郎

## I 今年度の取組と自己評価

### 1 教育活動の取組と自己評価

#### (1) 学習指導

##### ① 習熟度別授業と少人数編成授業の実施

次のように習熟度別授業と少人数編成授業を実施し、基礎学力定着に取り組んだ。

習熟度別授業	2 学年	商業・財務会計 I	(4 単位)
	2 学年	商業・原価計算	(3 単位)
	1 学年	数学・数学 I	(3 単位)
少人数編成授業	1 学年	商業・簿記	(5 単位)
	1 学年	英語・英語会話	(2 単位)

1 学年の3教科については少人数・習熟度ともに有効性は高いが、2 学年の専門科目は大きな成果には繋がらなかった。学校評価アンケートで効果が上がっていると考えている教員が85% (△24ポイント) であるのに対して、生徒・保護者は59% (▼1ポイント) に留まっており、効果検証と共に授業工夫や方策を検討する必要がある。

##### ② 学力スタンダードの推進

定期考査を利用しての学力調査としているが、教科会で授業進度の統一化は行っているものの理科、社会で共通考査問題化ができていない。専門高校のため教科によって専任教員が2名しかおらず、2名で3科目以上の授業担当をするなどの事情はあるが、スタンダードとして活用のため改善を講じてゆく。なお、国語で語彙力向上、数学と英語で苦手意識生徒への対応が課題となっている。

##### ④ 技能スタンダードの取り組み

全商の簿記、情報処理、商業経済検定試験で技能スタンダードとして標準到達度と最低到達度を設定して取り組ませ、簿記(3級・2級)で87.7%、情報処理(3級)75.4%、商業経済(ビジネス基礎)88.6%が検定合格し、不合格者も補講等により最低到達度をクリアーしている。

##### ③ 授業改善の取り組み

若手教員研修の授業研究を中心に授業改善に取り組み、生徒にわかり易く「伝える」授業ではなく「伝わる」授業を呼びかけている。教科会でより深い授業改善の努力を継続する。

#### (2) 進路指導

##### ① 全校体制での指導による進路実現

「就職」52.3% (103名)、「進学」46.2% (91名)、「その他1.5% (3名)であった。昨年に比べ就職者は3.3ポイント減少し、進学が4.8ポイント増加した。また、その他は1.5ポイント減少した。安定した求人状況により就職者は5割を超えており、その他の3名のうち1名は技能訓練、2名は進学浪人であり、全くの進路未定はいない。

就職については比較的卒業生から直接話を聞くことができた企業への希望が多く、職場環境等に重点を置く傾向が見られる。また、就職者を職種別にみると、事務職が57%、販売・サービス職が20%と8割弱を占め、その他は商品管理等が15%・オペレータ・プログラマ及び営業職がそれぞれ4%となっており、商業の学習や指導を生かした職種についていることが伺える。

進学では、四年制大学：48名(42名)、短期大学6名(4名)、専修学校等：37名(38名)であ

った。小論文講座や各科目の夏季集中講座を開催し、それぞれに必要な受講を積極的に行った成果が出ており、全体として実質的な進路未定者ゼロ指導を継続している。

## ② 全校的進路意識啓発の取り組み

進路指導部、1・2・3学年担任が中心となり職業教育を推進している。特に、卒業生を招いての就職懇談会を6月8日（水）に実施し、98社から参加が得られた。同時に進学者向け説明会と見学会を実施した。また、進路が決定した3学年生徒による2学年への進路体験の講和を3月に実施し、また、12月に実施した1学年全員、2学年就職希望者の計300名余でのインターンシップが早期職業観・勤労観醸成と進路意識の啓発に大いに有効であった。

## ③ 進路実現の支援

進路に向けた学年ごとの模擬試験の実施や、各目標に向けた各種検定試験の取得指導を、年間を通じて授業以外の放課後や休業日、長期休業日に講習を行って支援した。学校評価による進路指導への満足度（一人一人へのきめ細かな指導および進路情報提供）は最下段の数値目標と実績の通り。

### （3）生活指導

#### ① 基本的な生活習慣の確立の推進

生活指導ではなく、社会人としてのマナー指導として全校で取り組んでいる。毎朝、生徒からなる学園委員、生活指導部・学年教員を中心に登校時に、遅刻・服装・身だしなみの指導を実施し、平均3～5名の常習的遅刻者のほか、3学年生徒の進路内定後の遅刻が増加傾向にあった。また、月に1回頭髪・服装指導を全校体制で実施し、服装・ビジネスマナーとしての意識啓発を図った。なお、体罰の根絶に向けた教員への意識啓発を職員会議ごとに行い、ゼロ（0）となっており、継続する。マナー指導への学校評価による満足度は最下段の数値目標と実績の通り。

#### ② TPOを踏まえた学校文化の醸成

ビジネスマナー教育を全校のスローガンに、身だしなみを整え、あいさつを行う指導を実施した。3学年の進路活動はもちろん、地域イベント参加や1・2学年のインターンシップで、社会の一員としての自覚を醸成するとともに、公共心や道徳心の育成を図った。

#### ③ 安心・安全への取り組み

- a セーフティー教室として4月に1学年を対象に携帯電話によるインターネット事故・不正防止講話を愛宕警察署より講師を派遣して頂き実施した。また、12月に犯罪被害者遺族の全校生徒への講話では、大いに被害者の苦痛や心労等に耳を傾け、一人一人の意識啓発として有効であった。
- b 毎週1回（木曜）スクールカウンセラーが常駐し、個々の生徒の相談と担任等教員とで定期的情報共有によって良好な効果をあげているが、年々相談生徒の人数は増加傾向にある。家庭問題や精神的悩みが増えているが、学校評価の「様々な悩みや相談を先生に気軽に持ち掛けているか」では、生徒は38.7%が当てはまると回答しているのに対し、保護者や教員は62.8%であり、生徒との意識乖離が見られ、一層の組織的体制作りと支援の推進が必要である。

### （4）特別活動・部活動

#### ① 主体性・自律性の育成

生徒会や委員会活動を全校で支援し、体育祭や文化祭等の行事を通じて生徒の主体性・自律性の育成を図った。また、部活動の充実に取り組み、各運動部のみでなく、華道部・茶道部に「青少年を育てる課外活動支援事業」による外部指導者を招聘でき、活動の定着が図られた。部活動の加入率は兼部生徒も多く100%を超えている。学校評価での行事・生徒会活動・部活動の生徒及び保護者の満足度は平均73.5%であり、郊外での活動で外部に公開する機会を増やすなど、一層の活性化への支援を行っていく。

#### ② コミュニケーション能力の育成

本年度、書評合戦で予選通過をして都大会準決勝まで勝ち残った生徒がいた。また、英語スピーチコンテスト、英語ビジネス・プラン・コンテストへの参加もしている。商業の2年選択「商品

開発」の生徒が都の夕張プランコンテストで代表となり、夕張市へ派遣もされた。

### ③ 国際社会への興味・関心の喚起

3年目となる夏季・春季英国研修への11名参加（前年8名）が実現し、文化祭等で展示報告を行った。また、赤坂ロータリークラブ主催のパラリンピアンを迎えての障害者スポーツ体験交流を本校体育館で実施した。

### ④ 防災教育の推進

#### a 避難訓練の実施

7月、9月、12月、3月に避難訓練を実施した。港消防署の指導・助言を受け、地震や火災など、災害に応じて避難する場所や経路、方法等を改善しながら実施できた。

#### b 宿泊防災訓練の実施

6月10日（金）～11日（土）に学校を宿泊場所として1学年全員に一泊二日の宿泊防災訓練を実施した。芝消防署、港区防災課等の協力による避難所設営、起震車体験、放水訓練、救命訓練を行い、竹芝地区まちづくり協議会の近隣関係企業等の防災担当者による視察を兼ねての交流もでき、生徒にも良い意識啓発となった。

## (5) 学校経営

### ① 生徒募集活動

ホームページを活用し、通年で平均週2回タイムリーにトピックス発信することができた。ホームページ他、学校の特色発信の内容や方策をさらに工夫していく。

### ② 組織運営

分掌、委員会、教科会、企画調整会議等の校内運営組織は機能しているが、会議の持ち方や情報の共有が不十分である。打ち合わせや協議等の時間確保が困難で、情報や課題共有、対応策の取り組みを十分に行えるよう委員会や会議の持ち方を改善していく。

### ③ 危機管理体制

個人情報管理の徹底、情報通信機器のモラルの高い活用、体罰の根絶、いじめ防止を重点に、校内各指針や規則、手続き等を明確にして整備するとともに、サービス事故発令通知のたびに全教職員に周知、職員室等で話題にすることで事故0（ゼロ）を継続する。

### ④ 開かれた学校の取り組み

竹芝エリアのまちづくり協議会が発足し、生徒と共に竹芝地域の有力な一員として街づくり参加を推進して行く。12月には福井県池田町との連携による「芝商池田キャンパス交流事業」を正式に調印、発足させることができた。また、文化放送連携による浜まつりへの参加、公開講座、校訂開放も予定通り実施し、好評を得ている。

### ⑤ 経営企画室との連携

学校の施設・設備の安全維持管理、教育活動の裏付けとなる予算の適正・効果的な執行を図ったが、四半期ごとの予算執行が計画通りに進まず、執行時期の変更が著しかった。業者選定や予算会議等は円滑に進めることができた。

## 2 重点目標への取組と自己評価

### (1) 意欲ある生徒の安定確保

中学生および保護者向けの学校見学会、説明会、体験授業、個別相談等は計画通り実施し、前年並みの参加数は得たが、推薦2.71倍、一時最終0.94倍といずれも目標には届かなかった。状況の分析から、保護者向けの内容をもっと中学生自身に向けた内容への改善を含め、一層の魅力作りと共に広報活動を強化するが必要である。

### (2) 基礎学力の向上

① 学カスタンダード、技能スタンダードを活用しての基礎学力定着を図ったが、十分な検証と改

善にまでは取り組めず教科会を中心にきめ細かな改善が必要である。また、全校朝学習の学校評価による効果について、保護者で 51% (49%)、生徒は 41% (46%) の成果認識であるのに対して教員の成果認識は 73% (56%) であった。生徒の実感が持てる一層の内容充実が必要である。

- ② 言語能力基礎力醸成の方策としての読書活動推進については、年間計画で 7・8月の夏季 2 か月を読書月間に位置づけたが、通年で 1 か月平均 1 冊も本を読んでいない生徒が 35% (42%)、3 冊以上読んでいる生徒は 25% (22%) であり、若干の好転はしている。就職や進学の小論文等の基礎力育成のためにも読書活動推進を強化していく。

### (3) 魅力ある実践的学習の取り組み

- ① 商業の「ビジネス基礎」に「東京のビジネス」を組み込んでビジネス社会の基礎を習得させる取り組みはまだ試行状態であり、体系になっていないが、ビジネスの系列学習選択を考えさせることは概ねできている。
- ② 学習した商業の知識・技能を実践的に体験する場面づくりに位置付けた「模擬株式会社“芝翔”」は、いろいろな校外との連携や校外での発表、体験活動を行うことで具体的に着手することができた。総括を行い、発展、定着に向け一層充実させていく。
- ③ 竹芝地区まちづくりへの継続参画として、本年度は生徒会と写真部を中心に竹芝エリアマネージメント準備室と共に地域の魅力発見まち歩きフォトワークショップを実施できた。オリンピック・パラリンピック開催に向け一層生徒の参画を促していく。

### (4) 役立つ技術・技能の習得と検定・資格の取得

- ① 1 年全員インターンシップを活用し、情報処理の授業の中で各自が行った企業を題材に企業調べ、実習、まとめを行い、パワーポイントで相互報告を行わせ、3 月にインターンシップでお世話になった企業担当者約 30 名を招いての各クラス代表生徒が発表までを行った。ICT活用と学習拡大を図って行く。
- ② 生徒が必要とする各種検定試験取得のため、授業以外での講習や支援に取り組んだが、全商検定 3 種目以上 1 級合格者は 8 名(前年 29 名)と著しく減少した。中には 6 種目 1 級合格者もいるが、目標をしっかりと持たせた検定取得への取り組みをさせるよう、指導の工夫が必要である。  
次年度新入生からは都立高校改革の新実施計画に基づいた新たな教育課程を先行実施することになるが、目先の検定技能のみでなく、進路を見据えた系統的な学習目標を持った取り組みをさせていく。

### (5) 帰属意識と自尊心の育成

- ① 学校行事の充実により意識啓発を図り、学校評価による行事への満足度は生徒が 63% (▼4%)、保護者が 85% (▼4%) とやや下降しており、主体的な各自パフォーマンス発揮と集団意識を充実させていく。
- ② 部活動や生徒会活動、ボランティア活動が活発に行われ、各大会や協議会に学校代表として積極参加し、参加生徒の自信に繋がった。学校評価の満足度は、生徒 67% (△1%)、保護者 80% (△3%) と微増した。一層の組織対応で充実度の向上を図って行く。

### (6) キャリア教育の充実

1 学年全員と 2 学年希望者に対して、国際ロータリークラブ 2750 地区の協力をえて、12 月 8 日 (木) 9 日 (金) に企業等約 120 社で 320 名のインターンシップを実施した。中学校までのものと違い、社員として実務体験を依頼しており、生徒・保護者・企業から好評を得ており、進路を考える有効な機会となっている。こうしたキャリア教育充実への取り組みに対する評価は、生徒自身の積極性が 62%(64%)、保護者の考える充実度が 85%(83%)であり、生徒自身の意識の向上を一層図っていく。

## (7) 国際的な視野を広める

国際的視野を広めるための取り組みでは、本校に配属されたJETによるエリザベス講師による献身的指導が効果を上げている。また、夏季及び春季それぞれ2週間の英国研修には11名（前年8名）の参加があり、徐々に希望者は増えている。

## (8) 連携の推進

連携型中高一貫教育研究協議会を年4回開催した。（北区飛鳥中学校・十条富士見中学校）8月から12月にかけて2回の体験授業を兼ねた見学会ほか、生徒によるビジネスマナー講習、11月に半日体験入学の連携活動を行った。なお連携では12名の受け入れ枠に対し7名の入学があった。一方、地域連携では福井県池田町と竹芝まちづくり協議会、文化放送との連携が軌道に乗りつつあるが、大学との連携具体化が遅れており、生徒に有効な形をさらに構築していく。

## II 次年度以降の課題と対策

### 1 生徒の学力向上と進路実現

#### (1) 基礎学力の向上

- ① 教科毎の指導目標を明示し、生徒に目標をしっかり持たせた学習への取り組みを行わせる。
- ② 数学、英語、簿記関係科目について習熟度又は少人数授業できめ細かな指導を行なう。
- ③ 学力及び技能スタンダードにより実態を把握し、全教員による授業改善を行う。

#### (2) 進路実現

- ① 生徒一人一人の目的意識を向上させるため、資格取得の意義を十分説明・理解させ、検定試験を軸とした教育力アップを図る。また、進路に対応した教育課程の実施年度にあたり、改善する保護者及び中学校等に十分な周知をしていく。
- ② キャリア教育を充実させ、生徒の職業観、勤労観を高めた進路実現につなげる。この一環として、1学年全員のインターンシップを継続し、組織対応で早期からの進路意識向上に活用する。
- ③ 平成29年度入学生の教育課程改編で、生徒の進路を見据えた選択分野別学習の充実を図る。

### 2 意欲ある生徒の募集

#### (1) 入試倍率の拡大

- ① 生徒募集のための学校見学会や説明会、出前授業、体験入学等を全校体制で計画的にこなし、特に中学生自身にもわかりやすく本校理解を深めていくことが急務である。
- ② ホームページのトピックスを活用して、こまめな活動状況や学校の“今”を情報発信する。

#### (2) 連携型中高一貫教育校の取り組み

現在連携の北区飛鳥中学校と十条富士見中学校との連携内容を検討し直し、入学選抜関係部分とその他の連携部分を整理し、その効果を検証しながら入学希望者拡大を図る。

#### (3) 魅力ある商業特有の教育活動への取り組み

- ① 生産～流通の一連の流れの中で実践的なマーケティング、販売広告、簿記、情報処理、マナー教育を展開するため、地域連携を中心に社会と接する機会を設け、社会の一員として有用な精神を学ぶため、竹芝まちづくりへの参画、福井県池田町連携「芝商池田キャンパス」、文化放送連携等の活動を推進、定着させて、生徒の具体的活動体験機会を活用する。

【28年度数値目標と実績】

		目 標	本年度実績	昨年度比
入選応募倍率	推薦	3.0倍	2.71倍	△ 0.11
	一般	1.2倍	0.94倍	▼ 0.15
進路決定		100%	就職 52.3%	▼ 3.3
			大短専 46.2%	△ 4.8
			その他 1.5%	▼ 1.5
主な検定試験合格人数				
	全商簿記1級	70名	38名	▼ 6名
	日商簿記1級	1名	0名	0
	日商簿記2級	40名	16名	△ 11
	全商英検2級 or ステップ <sup>®</sup> 準2以上	50名	12名	▼ 15
学校評価	入学満足状況	80%以上	75.3%	△ 1.4
	マナー指導	80%以上	82.8%	△ 1.3
	教員授業改善	80%以上	66.9%	△ 6.3
	進路指導満足	80%以上	77.7%	△ 4.1